

令和7年度 学校評価結果

1 本年度の重点目標

- ・安全安心な学校づくり
- ・共に生き未来を創造することができる
- ・学力や体力の向上を図る

2 学教評価アンケート調査結果の傾向

(1) 全体評価

質問項目を変更して5年目となる。

全体の傾向は、1（あてはまる）と2（どちらかといえば、あてはまる）などの肯定的ポイントが高い傾向にある。児童、保護者、教職員によるそれぞれのアンケート結果については、多くの項目で肯定的ポイントの傾向に大きな変化は見られないが、質問内容によっては、児童と保護者、児童と教職員の間で割合にずれが見られるものもある。これらの点については、今後現状をさらに分析し、令和8年度に向けての課題としたい。

(2) 児童による評価

設問項目の中で、否定的なポイントが20を越えるものについて、改善が必要な状況である。「自分にはよいところがある」では、子ども自身が自己肯定感、自己有用感を得られるような手だてを講じていく必要がある。また「先生はあなたのよいところを認めてくれる」について、「わからない」と答えている児童も多い。学級活動や朝の会、帰りの会などで、子ども自身が認められる場の設定や価値付けを適宜行っていきたい。「いじめなど困っているとき、先生に相談できる」については、いじめは常に起きる可能性があることを考えると、困ったら相談できる心理的な環境作りが不可欠である。より丁寧に個人面談を行ったり、担任だけでなく、学年職員や養護教諭、スクールカウンセラー、心の教室相談員など、職員全体で一人一人との関係づくりに努めたりしていきたい。また「体育の授業や長放課などで、進んで体を動かしている」については、昨年度と比べ大きな変化は無いが、今後も「からだづくり講習会」や「縄跳び講習会」等を通して専門家から学んだ内容を体育の授業に積極的に取り入れたり、放課時の外遊びの奨励をしたりしていきたい。

(3) 保護者による評価

設問項目の中で、否定的なポイントが20を越えるものについて、改善が必要な状況である。「お子さんは、体を動かすことやバランスのとれた食事をするなど、自分の体力や健康に気を付けた生活をしていると思う」については、若干の改善が見られたが、継続的に行っている食育アンケートや家庭における食生活啓発活動、食育通信等により改善が図られると考える。また運動面については、体育の授業内容の見直しや外遊び等の奨励を行っていきたい。「お子さんは、家での学習に進んで取り組めていると思う」については、児童の認識とずれがあることから、児童の家庭学習に対し、保護者に尽力していただいたことで、児童は自らが取り組んでいると感じていることが分かる。このような児童の前向きな気持ちや学校での教育活動を随時ホームページや学校だよりで発信していくことで、保護者と職員が連携して自ら家庭学習に取り組める児童をさらに増やしていきたい。

(4) 職員による評価

設問項目の多くで、肯定的回答の割合が高くなっており、全体的には満足できる。しかし一方、教職員の「児童は、自分のよさを自覚していると思う」「児童のよいところを認める支援に努めている」のポイントは、児童や保護者のアンケート結果とは合致していない点も見られる。この実態を踏まえて、教職員でアイデアを出し合い、具体的な形で児童や保護者に児童のよさを伝えられるよう工夫していきたい。

(5) 地域による評価

設問項目の多くで、肯定的回答の割合が高くなっており、全体的には満足のできる回答を得るこ

とができた。しかし本年度は、「朝日小学校の児童は、地域の方に挨拶や返事ができると思う」のポイントが減った。今後も児童が積極的に地域の方に挨拶や返事ができるよう、学級活動や道徳の授業を通して挨拶の大切さを伝えたり、児童会が中心となって行う挨拶に関するさまざまな企画を通して児童が活発に挨拶のできる環境を作ったりしていきたい。